

平成28年度第2回 横浜美術館指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 平成28年 9月14日（水） 10時00分～ 11時30分
- 2 場 所 横浜美術館 円形フォーラム
- 3 出席者 高橋委員、西田委員、丸山委員、村井委員、吉本委員
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 なし
- 6 議事内容

議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 定足数の確認</li> <li>2 委員会の公開・非公開について</li> <li>3 平成27年度指定管理者事業の外部評価について</li> </ol>
委員 意見 等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 定足数の確認 委員数5名のうち5名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</li> <li>2 委員会の公開・非公開について 〈審議結果〉 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜美術館指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。</li> <li>3 平成27年度指定管理者事業の外部評価について 〈経営についての評価〉 (委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルサービスボランティアの拡大や大学と連携した作品、記録映像の制作など市民協働が非常に深化している。</li> <li>・フォト・ヨコハマなど市の施策やイベントと連動した取組を行っており、広報でもツイッターフォロワー数の増加や作品制作の生中継など多彩なチャンネルで国内外へ発信できている。</li> <li>・自主財源の獲得では、現在順調であるが、加えて企業、市民からのファンドの仕組みづくりを検討していくことを期待する。</li> <li>・英文でのプレスリリースなど、細かな点を順次対応している点を評価する。</li> <li>・第2期指定管理期間に入って積み上げてきたものが、次第に成果となっていることが見え、Aに近い評価である。</li> <li>・外部評価はBとする。</li> </ul>                       〈事業①についての評価〉 (委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展については、非常に良い内容となっている。海外からの来館者数どのくらいか。毎年増えているか。</li> </ul>                     (指定管理者) <ul style="list-style-type: none"> <li>・総入館者数の約1%となっている。内訳は、ヨーロッパ、アジア、北米から約3割ずつである。今年の4月から調査を実施しているため、今後推移を見て行く。今後アジアからの来館者が増えて</li> </ul> </li> </ol>

行く余地があると考える。

(委員)

- ・各企画展の位置付けを明確にし、質が高く多様な内容で実施できている。若手アーティスト支援における工夫や、市民や学生ボランティアとの協働による作品制作など付加価値として評価できる。
- ・即効性が低くても、質が高く種まきのように時間を要する性質の展覧会という側面も高く評価できる。
- ・一部目標来館者数に届かない企画展もあったが、それだけで改善への取組を要するものではないと考える。
- ・メディアでも様々取り上げられており、良い内容の企画展を実施できたと考える。
- ・外部評価はAとする。

〈事業②についての評価〉

(委員)

- ・横浜美術館は良いコレクションを収蔵しており、その運用の仕方も評価できる。一方、東京の人にはそれが十分に浸透していない部分があるので、更にアピールしていくことを期待する。
- ・コレクション展では、目標来館者数を達成しており、企画展と連動した内容とすることで新たな魅力を提供している。また、国内外でのパッケージ展開催に向けての継続した取組を評価する。
- ・学芸員と司書の専門性を備えた職員の配属を適切に実施できている点を評価する。
- ・平成26年度の評価において美術情報センターの資料が活用されていないという指摘をしたが、平成27年度においては、展覧会で公開するなど改善に向けての取組ができている。
- ・外部評価はAとする。

〈事業③についての評価〉

(委員)

- ・横浜美術館の取組は他の美術館と比較しても非常に活発な活動をしている。
- ・市民、企業などとの連携が非常に優れている。また、特別支援学校や病院、幅広い世代のさまざまな立場の市民に向けて、鑑賞、創作等、美術を楽しむ機会を積極的に提供しており、公立美術館として美術を通じた社会教育の使命を果たしている。
- ・開館以来、子どもの美術教育に注力しており、長い期間継続した取組ができている。また、学生や市民ボランティアの作品制作への参加など、従来のボランティアのみにとらわれることなく、一層の市民協働の進化が見られ、市民に開かれた美術館として年々具体的に深化していることを評価する。
- ・平成27年度はボランティアやコレクション・フレンズにおいても協働の広がりが見て取れる取組であった。特にコレクション・フレンズでは、参加者数も増加し、市民が主体的に美術作品に関わりたいと思うような事業ができている。
- ・外部評価はAとする。

〈施設の運営事業等についての評価〉

(委員)

- ・運営事業の政策目標に対し、ハード・ソフト面から継続的に改善の取組ができている。

- ・多様な来館者がいるなかできめ細かい環境の整備に取り組んでいる。外国人の来館状況の把握やサイン、多言語化などアクセシビリティの整備など、様々な視点からホスピタリティの向上に努めている。
- ・利用者数の拡大やホスピタリティの向上のため継続した人員の強化を図っており、専門人材の育成に力を入れている点を評価する。
- ・政策協働による指定管理について、政策協働型でない他の施設と同様の評価方法ではなく、行政の協働についても検証できるような方法を検討してほしい。
- ・「3 施設の運営事業①」の外部評価はBとする。
- ・「3 施設の運営事業②」の外部評価はBとする。
- ・「4 その他の業務」の外部評価はBとする。
- ・「5 収支計画」の外部評価はBとする。
- ・「6 人員計画」の外部評価はBとする。
- ・「7 留意事項」の外部評価はBとする。

〈基本方針についての評価〉

(委員)

- ・大学との作品制作における連携やSNSを通じての来館者の拡大など双方向性を踏まえた取組、企画展を通じた市民と芸術の繋がりを築く取組など、市民が横浜美術館を近く感じ、愛着と誇りを持っていて高く評価する。
- ・質の高い取組ができており、市民協働の広がりによる成果が出てきていることなどから基本方針に掲げる各目標を徐々に実現できていることを評価する。
- ・地域創造大賞（総務大臣賞）は、単年度の評価ではなく、複数年間の取組の評価であることから、現館長の下、着実に積み重ねてきたことから受賞できたものである。
- ・外部評価はAとする。
- ・今回、外部評価において高い評価を得たことを外部にアピールするなど、評価結果をプラスになるよう使っていてほしい。
- ・指定管理者の成果が見えるようにしていき、運営をより良くしていくツールとして評価を活用してほしい。

議事は以上